

(仮称) 新田原臨海風力発電所計画段階環境配慮書についての部会報告 (案)

はじめに

(仮称) 新田原臨海風力発電所計画段階環境配慮書 (以下「配慮書」という。) について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

事業者は、以下の事項について十分に検討した上で、事業計画を策定するとともに、環境影響評価方法書 (以下「方法書」という。) 以降の図書を作成する必要がある。

1 全般的事項

- (1) 事業実施区域等を絞り込んだ経緯及びその内容について、方法書において丁寧に記載すること。
- (2) 事業計画の検討に当たっては、国内外の環境の保全に関する最新の知見を踏まえ、環境影響をできる限り回避、低減すること。
- (3) 事業実施想定区域 (以下「区域」という。) 及びその周辺には、既設風力発電所が稼働していることに加え、建設中の風力発電所があることから、騒音及び超低周波音、風車の影、動物並びに景観に関して、本事業との累積的影響が懸念される。

このため、既設風力発電所に係る騒音の状況及び鳥類の風力発電機への衝突状況等に関する情報を踏まえ、累積的な影響について、適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

2 騒音及び超低周波音、風車の影

区域周辺に住宅等が存在することから、施設の稼働に伴う騒音及び超低周波音並びに風車の影による生活環境への影響が懸念される。

このため、風力発電機をできる限り住宅等から離隔するなど、生活環境への影響に配慮した事業計画とするとともに、「風力発電施設から発生する騒音に関する指針」(平成29年5月、環境省) 及び「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」(平成29年5月、環境省) に基づき、適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

3 動物

区域及びその周辺には、チュウヒ等の重要な種が確認されており、また、区域の周辺には、水鳥の重要な渡来地である汐川干潟が存在する。さらに、サシバやハチクマをはじめとする多くの鳥類の渡りのルートであることから、鳥類の風力発電機への衝突事故や移動経路の阻害等が懸念される。

このため、専門家等の指導・助言を得ながら、動物への影響に配慮した事業計画とするとともに、適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

4 景観

区域周辺に主要な眺望点が存在することから、地形改変及び施設の存在に伴う景観への影響が懸念される。

このため、景観への影響に配慮した事業計画とするとともに、適切な調査、予測及び評価の手法を検討すること。

5 その他

- (1) 方法書以降の図書の作成に当たっては、住民等の意見に配慮するとともに、分かりやすい図書となるよう努めること。
- (2) インターネットの利用により公表する図書について、印刷できるようにすることや、縦覧期間後も引き続き閲覧できるようにすることなど、住民等の理解促進及び利便性の向上に努めること。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
令和2年7月17日	審 査 会	知事からの諮問 配慮書の内容の検討 部会の設置及び付託
令和2年8月21日	部 会	配慮書の内容の検討 住民意見の概要等の検討 関係市長意見の検討 部会報告の検討

愛知県環境影響評価審査会 田原風力発電部会構成員

生田 京子	名城大学理工学部教授
伊藤 由起	名古屋市立大学大学院医学研究科准教授
佐野 泰之	愛知工業大学工学部教授
塚田 森生	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
中野 正樹	名古屋大学大学院工学研究科教授
夏原 由博	名古屋大学大学院環境学研究科教授
西田 佐知子	名古屋大学博物館准教授
葉山 嘉一	公益財団法人日本鳥類保護連盟評議員
吉永 美香	名城大学理工学部教授

◎部会長 ○部会長代理

(敬称略、五十音順)